

日本とライバル中国を結ぶ経済関係



Charles Pertwee for The New York Times

古代の中国武将のテラコッタ像の複製が神戸の中華街のある銀行の窓に最近、映っていた。[Sign In to](#)

[E-Mail This](#)

- [Printer-Friendly](#)
- [Single-Page](#)
- [Reprints](#)
- [Save Article](#)

筆者: ハワード・フレンチと大西哲光

Published: October 31, 2005

上海、10月26日

中国北東部の大連のコールセンターで、完璧な日本語を話す若者が、日本の保険会社の顧客サービスの電話に対応している。西日本では、神戸市の再興された港湾地区で新たな中華商店街が栄えている。

新しい中華街には、古い中華街のけばけばしい中華料理店よりもむしろ、バイオテクノロジーから、日本の最も伝統的な装いの着物まで、あらゆるものに目を向けた中国企業に賃貸している目立たないオフィスビルがある。

高まる国家主義により、政治的緊張が増している時、中国と日本は、かつてないほど経済的に密接に結びついている。その関係は、広さと強さで、かつて世界で最も重要だとしばしば言われてきた日米間の関係をしのぎ始めた。

その関係は急速に悪化する外交関係と好対照をなす。10月17日に日本の小泉首相が、日本の戦死者の国家主義的記念碑である靖国神社に参拝し、中国が直ちに高官レベルの協議を取りやめて外交関係は、またも最悪の状態になった。

緊張は多分アジアの変革に伴って高まり続けるであろう。中国は過去150年にわたり、自国の歴史的な役割であったアジアでの経済的、政治的リーダーの位置を日本に譲ってきたので、取り返したいと切望している。

中国最大都市であり、日本にとってますます重要になる商業上の動脈である上海にある東京三菱銀行上海支店の支店長堀敏雄氏は次のように語った。「この2、3年で、事態は我々の間で、白黒ははっきり別れた。政治や外交の面で、事態は悲観的だが、経済面では2国の関係はますます強くなっている。」

両国が失うものが大きいという現実により、反感が対立になる可能性は減少した。

中国との貿易が急増したことにより、日本経済は、失われた十年の弱々しい成長と繰り返す不況から脱却した、又中国からの安い輸入品が日本の長年苦しんできた消費者にかなりコストを押し下げた。

15万人以上の中国人学生が、日本の大学や語学学校に通い、100万人の中国人が日本企業で働いている。

上海に、公式では2万人、実際には10万人もの在留邦人がいるかもしれない。これは海外で一番大きな日本人コミュニティーである。

日本は総額315億ドルを投資しており、これにより中国は日本の多大な工業技術を学ぶことが出来る。

中国が非常に急速に昇りつめてきたので、日本は今や、中国経済と真に競争しなければならないことを熟慮しなければならない。規模で日本を追い越すだけでなく、多分まもなく高度化においても日本に匹敵するであろう。

両国の不確かな新関係は、有望でありかつ、疑念をいだかせるものであるが、上海で今日、全容を見ることが出来る。

上海には、日本軍の攻撃から 63 年を経て、日本人の居住地区が点在している。日本語の雑誌には、飲食店の講評から性風俗店のリストまであらゆることが載せられ、富裕なアジア地域の駐在員を満足させている。又日本商工クラブの会員名簿は、日本実業界の人名録になっている。

しかしながら、そのうわべだけ居心地のいい海外生活は、突然 4 月に奪われた。小泉首相が、アジアで残虐な行為を犯した日本軍を祭っている靖国神社を参拝したことに対する大がかりな抗議デモが暴動になったのだ。群集は日本領事館に石を投げつけた。

小泉首相が 9 月の総選挙で圧勝したことで、日中の公的關係は多難なままであろう。しかし、来年小泉首相の退陣後、進展がありうるかもしれない。

東京三菱銀行の堀敏雄氏は、上海日本商工クラブの理事長でもあるが、最悪の恐れは、おそらく中国全土でデモが又起きることであると語った。それでも、「日本企業が撤退しベトナムなど他の地域に行くのは無意味だ。」と付け加えた。

「二国の関係はすでに非常に重要なので、そんなことは出来ない。」と彼は語った。

大連理工大学の学生は、その多くが日本企業に競って職を求めるが、彼らの間では実用主義的な見方が強い。「歴史問題は歴史問題であるが、現実的になるべきだと思う。」と 22 歳の工学部の学生、張帥氏は言った。

日本のあちこちで、同じような実用主義が見られる。これは中国の台頭を心配そうに、時にはヒステリックに人々が話し合うのとは際立って異なっている。日本の高度に工業化された関西地域の他市と同じく、10 年前に地震で荒廃した港町神戸は、何年もの間、不況である。

中国の台頭を好機と見て取り、神戸市は中国企業の誘致と中国、特に上海地域との貿易の振興に多額の投資をした。

実業家の陳建君氏(43)は神戸のバイオテクノロジー・コンサルティング会社の上海潤東バイオテクジャパンの創業者である。陳氏は日本の大学院の学位を取得後、自らの事業を始める前にネスレで働いた。現在彼は日本の製薬会社に臨床実験やマーケティングを中国で行うようにアドバイスしている。そして 2 国の問題を大きな視野で見ている。彼が言うには、「中国と日本は互いに近いが、関係は隔たっている。お互いに相手をよく理解していない。」

そのような嘆きは、基本的にお金をもうけたい現実主義者である両国の実業家の間で繰り返される。日本では、実業界は、どちらかという小泉首相を支持して国内の経済を変化させようとしているが、政府の中国への敵対政策にうんざりしている。経営者は来年小泉首相が退陣した後、さらに国家主義的な指導者になることを恐れている。

理解のずれは学校や大学まで広がっている。中国人学生はますます、アメリカより日本の大学を選んでいるが、彼らは日本人が多くの点でアメリカ人よりももっと遠い存在であるのにしばしば驚く。

神戸大学の中国人学生、高瑞紅さん(35)によると、「中国人はアメリカ人の方ををもっと理解していると思う。中国や合衆国では、ホームパーティを開いて友人や隣人を招待する。私は日本へ9年前に来たが、友人の家に招待されたことはめったにない。」

しかし、高さんは、ほとんどの級友と同じく、楽観的であった。「日中関係は将来、もっと緊密になるであろう。私は2国の架け橋になりたい。」と彼女は述べた。

上海の大きな日本人コミュニティの多くの人にとって、2国間に将来より良い未来を構築する最良の方法は、今すぐ繁栄への大いなる機会に乗じることにあるように思われる。

「将来、この市場に何が起こるか分からないが、われわれの発展は大いに中国で起こる事にかかっていると思う。」とマツダ上海企業管理諮詢有限公司の取締役社長、太刀掛哲氏は言った。日本の自動車会社はヨーロッパやアメリカの自動車会社に比べ中国では後発であるが、今日では日本ほど中国に多額の投資している国はない。

上海にある公認日本人学校は2214人の生徒を有し、10年前から10倍に増加し、そして以前にも増して、急速に大きくなっている。「今のところ空きはありません。」と学校長の泰地和幸氏は完成間近い新しいキャンパスの模型をみせながら、微笑んだ。

泰地校長は4月の抗議デモ直前に上海に来た。そして中国到着時に見て驚いたことを語った。「私は、共産主義からの別の形での変化を予想していた。つまり東京規模の活況を呈する都市と違ったものを。日本の発展は中国次第であり、中国の発展は日本次第であるということ日本人、自分の兄弟姉妹でも理解させるのは難しい。日本人は日本のメディアの影響下にあり、それはいつも中国を非難している。」

山本えり子さん(26)は日本は中国とより緊密な関係を築くことで再活性化できると信じている。彼女は、東京の日立製作所の常勤職を退職後、中欧国際工商学院で勉強するために

最近上海に来た。

山本さんは次のように言った。「当初、中国に行って色々やってみよう、そして中国でうまくいかなかったら、いつでも日本に帰れると思った。でもここで、少しお金があったら、ほとんどなんでもやれるとわかった。日本では、そんな気がしないであろう。規則が多すぎる気がする。」